

## [ウガンダ国の概要]

- 正式名称 : ウガンダ共和国
- 首都 : カンパラ
- 面積 : 約 24 万 k m<sup>2</sup> (ほぼ本州大)
- 人口 : 約 3,170 万人 (2008 年世銀統計)
- 言語 : 英語、スワヒリ語、ルガンダ語
- 通貨 : ウガンダ・シリング  
(1 米ドル=1,898 シリング (2009 年 10 月現在))
- GNI/capita: 420 米ドル (2008 年世銀統計)



ウガンダ位置図

## [政治経済情勢]

ウガンダ国は東アフリカの赤道直下にある内陸国で、南部にナイル川の最上流部にあたるビクトリア湖が位置している。ウガンダ国は、独立以来、度重なる内乱により、1986年に成立した現ムセベニ政権がほぼ全土を平定するまで経済は混乱した。1987年以降世銀、国際通貨基金の支援を得て、構造調整政策を積極的に推進している。1990年代には年平均約6%、近年も5%~7%の高い経済成長を記録している。同国の主要産業は農業であり、GDPの約40%、輸出の約80%、雇用の約80%を占めている。政府は近年、貧困削減のためには経済成長の一層の促進が不可欠との認識の下、貿易・投資の促進、民間セクター主導の経済成長の促進を図っており、特に農産物を中心とした輸出品の多様化、付加価値の付与を最優先課題としている。

## [電力事情]

エネルギー鉱物開発省が電力を始めとするエネルギー部門を管轄しており、エネルギー政策や電力政策の策定を担当している。電力部門の規制は、電力監督庁が担当している。発電部門と配電部門は、営業権の譲渡という形で一部民営化されている。発電事業はウガンダ発電会社(UEGCL)、UEGCLから一部設備の営業権を譲渡されたエスコムウガンダとアグレコの2つの民間企業およびキレンバ鉱山とカセセコバルト鉱山の2つの独立電気事業者が行っている。配電事業についてはウガンダ配電会社と首都圏地域の営業権を譲渡された民間企業、UMEME社が実施している。送電部門についてはシングルバイヤー制をとっており、ウガンダ送電会社が事業を実施している。

電源は水力とディーゼルとバガスによるコジェネレーションで構成されている。2008年末時点の総発電設備容量は506.5MWで、その約78%を水力が占めている。中でも、ナルバレ水力、キイラ水力の合計設備容量380MWだけで、全体の約75%を占めている。ウガンダ国の基幹送電線は、132kV系統および66kV系統で構成されている。132kV系統の送電線は、ケニアとはトロロ変電所を介して、タンザニアとはマサカ変電所を介して連系されている。

2007年における発電電力量は18.9億kWhであり、そのうち、国内供給電力量は、近隣諸国との差引輸出量を引いた18.3億kWhであった。2003年から2007年までの5年間に於いて国内供給電力量は約1.2倍、販売電力量は約1.08倍、最大電力は約1.3倍増加している。